

重点的に取り組んだ活動・内容

項 目	実 践 状 況
1 実践1 【人権週間、 いじめ0集会】	・12月4日から10日の人権週間に合わせて、茨城県人権教育室から視聴覚教材を借用し、視聴を行った。その後、いじめ0集会を開き、全校児童で取り組んでいきたい優しい言葉遣いや温かい態度として、「ふわふわ言葉」と「ふわふわ態度」について各学級ごとに考え、意見を交流し、作成した言葉や態度の掲示を行った。
	成果 ・学校全体で、暴言や冷たい言葉などのちくちく言葉が減ってきた。 ・委員会の活動と関連させながら取り組むことができたので、学校全体の課題について児童に主体的に考えさせるきっかけになった。 ・事前に「言葉の暴力」に焦点を当てて視聴覚教材を借用し、視聴しておいたため、その後の活動では、人権についてより理解を深めることができた。
	課題 ・視聴覚教材については、人権教育室の方に相談して、内容を精選していたが、他教材等についても、児童の実態に応じて学校の人権教育部会で内容を検討していく必要がある。
2 実践2 【授業の実践】	・2年、5年で「ふわふわ言葉」「ちくちく言葉」の授業実践を行った。役割演技を取り入れることで実感を伴う内容になった。1週間の実践記録をつけ、自分の行動をふり返ることができるようにした。 ・スクールカウンセラーと学級担任の共同授業を行い、全学年においてSSTの授業実践を取り入れた。アサーションスキルを身に付けるよい機会となった。
	成果 ・授業参観で実施したことや、学年便りを通じて保護者への啓発を行ったことで、保護者と学校が連携しながら人権についての学びを深めることができた。 ・自他を意識した行動につなげることができた。
	課題 ・スクールカウンセラーとの打ち合わせの時間の確保など、日程の調整で授業実施日がずれることがあったので、計画的に実施できるようにしたい。 ・通年で、人権を意識した教育につなげることができるよう、人権教育部を中心として、職員の啓発も積極的に行っていきたい。